

番号	テーマ	ご意見・ご質問	回答・説明
1	地域の公共交通を守りたい	<p>地域交通に関する事業は概ね利用率は上らず、財政負担が増え続けています。経費節減に努めてもどこまで続けられるか。そこで、可能な限りの事業を廃止し、利用者にタクシーチケットを支給するのはどうでしょうか。</p> <p>運転免許証を持たない、路線バスがない地域在住といった条件を満たす高齢者（児童生徒）が対象。チケットは本人利用に限り、乱用を防ぐため何らかの限度額を設ける。利用者の意見聴取や経費節減につながるかを試算し、可能性があるなら試行（社会実験）を経て対象者・地域を固めていく。</p> <p>【メリット】▽車両関係の維持管理費、人件費が不要になる▽利用者の利便性や満足度向上（いつでも、一人でも気兼ねなく、自宅から乗れる・など）につながる。</p> <p>【課題】地域や利用額によって、どのような線引き、制限を設けるか。</p>	<p>タクシーチケットの配布については、運転免許返納者に対し、タクシー券かコミュニティバスの回数券10,000円分お渡しする事業を行っています。現行の施策の代替として、条件を満たす方々へのタクシーチケット配布については、ご指摘のとおり「線引き」が難しいと考えます。また、タクシー運転手も不足しており、予約が集中すると対応しきれない可能性があると思われま。来年度から、本市の地域事情にあった持続可能な公共交通網の再編について検討を進めたいと考えており、今回いただいた様々なご意見についても検討してまいりたいと考えているところです。</p> <p>[参考]</p> <p>市内の75歳以上人口 約8,566人（2020年国勢調査結果） 昨年度のコミュニティバス・あいのりタクシー利用者数 延べ22,020人（小中学生の通学利用者 11,990人） コミュニティバス・あいのりタクシー年間委託費 82,608千円</p>
2	地域の公共交通を守りたい	<p>道路や街灯など老朽化がみられるため修理をして欲しい。</p>	<p>道路舗装、側溝等附属物の老朽化による取替え、修繕工事については職員の巡視、自治会要望書を基に安全性を確保する為、予算の範囲内で順次補修事業に取り組んでまいります。</p>
3	地域の公共交通を守りたい	<p>(各種サービスの周知、認知度の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの停留所などあることは分かりますが、どこで乗り降りできるか分からない人が多いと思います。 ・各種制度を具体的に知っている人は多くないと思います。 ・相乗りタクシーなど料金形態が分かりにくいと思います。 ・豊後大野市内で、バスがどのように運行されているのか、正直わかっていません。 ・利用料金等のバスに関する広告などの宣伝を行ってはいかがでしょうか。 	<p>コミュニティバスについては、時刻改正の際に、運行路線を図示した時刻表を対象となる町の全戸に配布していますが、ご指摘のとおり制度をご存じではない方も多いためと思われま。</p> <p>また、鉄道のように線路があるわけではないので、運行経路などがわかりにくいとも思われま。</p> <p>今後、運行形態の見直しを行う際には、ご意見を参考にさせていただきます。</p>
4	地域の公共交通を守りたい	<p>公共交通は絶やすことができないと考えていますが、利用者が少ないと思うので、各地域に利用者がどのくらいいるのか調べ、利用人数による運行表を作成の上、必要な地域に最大限の費用を投入する方向で経費を調整し、運営したほうが補助金の効果を最大限活かせるのではないかと感じま。</p>	<p>公共交通には、費用は利用者の運賃でカバーすべきとの考え方がある一方、まちづくりの観点や社会インフラとして維持すべきとの考え方があるといわれています。</p> <p>本市では、路線バスも含め、旧町と旧町といった地域間を結ぶ路線や市民病院と地域拠点をつなぐ路線については、運行日数を多くし、その他については、利用状況に応じて、週当たりの運行本数や日当たりの運行本数を決め運行していますが、その利用状況は運行毎に調査を行っており、その結果はホームページにおいても公表しております。</p> <p>なお、近年の地域情勢の変化やコロナ禍の影響により、利用者数は急激に減少しています。利用者数については、別添資料をご覧ください。</p>

番号	テーマ	ご意見・ご質問	回答・説明
5	地域の公共交通を守りたい	<p>(利用しやすいサービスを)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス等交通手段が本当に必要な地域の人たちの意見を市の職員の方が自宅訪問して聞いて回ることが大切ではないかと思えます。 ・もっと利用しやすい補助などがあればうれしいです。 	<p>地域住民へのニーズ調査については、令和3年度に市内65歳以上の方を対象にアンケート調査を実施し、意見の把握を行いました。このほか、令和2年度から3年度にかけて三重総合高校の総合学習の中で、バス通学の促進について調査を行ったほか、高齢化率が75%を超える大野町の北部地域を対象に、大学と連携し、対象地区の全戸調査を行っています。このほかコミュニティバス利用者満足度調査を毎年12月に、車内にて実施するなど定期的に利用者の意見聴取を行うなどし、ニーズの把握に努めているところです。</p>
6	地域の公共交通を守りたい	<p>(公共交通サービスの充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフラが充実していないと感じます。もっとJRなど公共交通機関を増やして欲しいです。 ・大分から三重町に帰っても、自宅までタクシーがなく不便に感じます。 ・現在の利用者数が原因だと思いますが、本数が少ないのではないかと感じます。 	<p>鉄道利用者について、豊肥本線の犬飼駅から朝地駅までの市内区間の利用者数は、S45年に240万人いたものが、H27年には63万人まで落ち込んでいます。この状況は路線バスやコミュニティバスも同様で、公共交通利用者は大幅に減少しています。タクシーについて、三重町駅では、以前は1時頃までタクシーが待機していましたが、利用者の減少により、12時に車庫に帰っている状況です。事前予約があれば終電到着まで待機するそうですので、ご用命の際は、地元タクシー会社へご相談ください。</p> <p>(JR九州はH28年度から、各駅の利用者数を公表していません)</p>
7	地域の公共交通を守りたい	<p>紅葉シーズン等を活かしたバスの運行は可能でしょうか。</p>	<p>イベントの際にコミュニティバスの運行を望むご意見をいただくこともございますが、車両の運行管理業務を委託しているバス運行事業者も人員不足のため、休日勤務に対応できる乗務員を別途確保できないといった問題や、道路運送法の手続き上、不定期で、かつ路線を定めない運行を有償で行うことについて、協議会での合意を受けていないことなど、様々な要因からイベント時におけるコミュニティバスの臨時運行の対応は困難な状況でございます。</p> <p>来年度から、本市の地域事情にあった持続可能な公共交通網の再編について検討を進めたいと考えており、このようなことについても検討してまいりたいと考えているところです。</p>
8	地域の公共交通を守りたい	<p>富山県朝日町では「ノッカルあさひまち」という新しい公共交通があるそうです。ぜひ本市でも導入を検討して欲しいです。</p>	<p>朝日町(高齢化率約45%、人口の殆どが10km平方に居住する地域)では、住民参加型の地域づくりの一環として、住民が自家用車を使い高齢者を送迎する仕組みを設けています。登録した町民が、通勤や空いた時間を活用したデマンド(予約に応じて運行する)型の運行を採用しており、LINEや電話での前日予約が必要でバス停での乗車が必須としています。</p> <p>運賃は600円。ドライバーの報酬は一人輸送するたび町内で使える商品券200円。課題はドライバーの確保だと伺っています。</p> <p>朝日町も、制度の導入に際しては、自治会や交通事業者などから構成される市地域公共交通活性化協議会において関係者合意を得ることが必須要件であったことから、関係者と様々な調整を行ったと考えております。</p> <p>本市での導入についても、同様に関係者(特に交通事業者)と協議・調整する必要があります。</p>

番号	テーマ	ご意見・ご質問	回答・説明
9	地域の公共交通を守りたい	いま、国が議論を行っているライドシェアについても市独自に検討を始めてよいのではないのでしょうか？	<p>自家用車を使って有料で乗客を運ぶサービス「ライドシェア」を政府が検討しています。</p> <p>市内では、合併前からコミュニティバスの運行を行っていますが、これは、市が所有するスクールバスなどを活用し、道路運送法の規定による白ナンバーで旅客を運送する「自家用有償旅客運送」制度によりバスの運行を行っており、これもいわゆる「ライドシェア」となりません。</p> <p>運行について、本市は市内交通事業者により市が所有する車両の管理も含めた運行管理業務を委託していますが、今回検討するライドシェアの議論では、個人が所有する車両も新たに公共輸送の一つとして加えてはとのことだと思われます。利用者目線での利便性確保も大事ですが、事業を将来にわたって持続させるための取組も必要なことから慎重に検討したいと考えています。</p>
10	地域の公共交通を守りたい	ガソリン等の必要最低限の価格で利用できる仕組みがあれば利用者も助かると思います。	ご意見いただいた内容の運行となれば利用者にとっては、ありがたい制度となると思われますが、運行に対する利益が発生しない制度となれば乗務員は集まりにくく持続可能な制度となりにくいと考えています。
11	自然豊かな魅力ある地域を市内外へ発信したい	<p>・スポーツ</p> <p>県内プロチームの合宿誘致（主にトリニータ）。施設面は十分満たせると思われます。</p> <p>【メリット】現在は鹿児島県で1月に実施▽チーム側は移動距離が短くなり、経費節減できる。地元住民との交流機会を設け、新たなファン層の開拓と競技の底辺拡大につながる▽市側は施設の知名度アップ、住民の満足度向上につながる。既存事業の補助率アップも要検討</p> <p>【背景】トリニータは県からの財政支援（ドーム使用料免除ほか）、度重なるクラウドファンディング（寄付）とカネがないチーム。キャンプを県外でして県内にカネを落とさないのはいかかなものか。もちろん県外チーム（下のカテゴリー）でもいい。キャンプが集中する宮崎、鹿児島から1チームでも奪いたい。</p>	<p>プロサッカーチームの合宿誘致については、冬芝の整備が必須となります。</p> <p>本市の施設では冬芝を整備している箇所がなく、プロサッカーチームの合宿誘致は、現時点では困難であると考えております。</p>
12	自然豊かな魅力ある地域を市内外へ発信したい	<p>・サウナとの絡み</p> <p>近年の健康志向と相まって、豊後大野が強く打ち出せるのは豊かな自然と食。ジオ、エコパークに加え、オルレも仕掛けを拡充したい。特に食（農業）では有機栽培、自然食などを扱う店を道の駅に入れたい。市内には道の駅が五つあるが、どれもインパクトが弱い。ヨガなど女性に支持される拠点もあるといい。</p>	各道の駅の運営は、地元住民が中心となった経営体が、地域の農産物生産者等と連携して行っております。また、それぞれの道の駅ごとに特産品を活用したスイーツの開発や、地元の神楽や桃、新米等をメインとしたイベントも活発に行っており、地域ぐるみでの盛り上げを図っています。新たな取組や投資に関しては、財源の確保や、地域住民のコンセンサス等も重要と考えており、引き続き連携を密にし、検討していきます。

番号	テーマ	ご意見・ご質問	回答・説明
13	自然豊かな魅力ある地域を市内外へ発信したい	<p>(イベントの充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川下り・登山及び鮎釣りのイベントを行い、もっと市外から人を呼ぶ必要があります。 ・周知するイベントが少ないように感じます。 	<p>現在、市内で開催される20の観光イベントに対して補助金を交付しております。また、最近ではマウンテンバイクやボルダリング、サップといった豊後大野市の魅力である自然を体感できるアウトドアアクティビティを始めたため、準備中の事業者がいることから、イベントは充実していくものと認識しています。観光協会とも連携して多彩なイベントが伝わるよう、情報発信の充実に努めます。</p>
14	自然豊かな魅力ある地域を市内外へ発信したい	<p>実際に豊後大野市に来てもらい、体験してもらわなければわからないものが多いと考えており、大分駅等から豊後大野市への観光バスツアーの運営を企画してはどうでしょうか。なるべく経費を抑え何度も企画できるようにし、持続可能な計画を作ったらいのではないのでしょうか。</p>	<p>市内4つの酒蔵が蔵開きを同日開催する「巡蔵」のほか、ジオパークやエコパークを体感できるツアーを毎年実施しており、その発着場を大分駅にしているツアーもあります。ツアーの造成や運行については一定の経費が必要となりますが、民間が実施するツアーが増えるよう働きかけていきます。</p>
15	自然豊かな魅力ある地域を市内外へ発信したい	<p>(サウナのまち)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『サウナのまち』に関しては名前だけが先行している印象で、内容が伴っているか疑問が残ります。街中のサウナ施設を整備してはどうか。 ・豊後大野市以外の人からしたらサウナの施設がどこにあるか分かりにくいと感じます。 ・「サウナのまち」のアイデアは大変よいが、清流とのマッチングだけでは弱いのでは？豊後大野市に行かないと体験できないことも必要では。(ジオ、エコパークとの組み合わせ等) 	<p>サウナ利用者数は令和2年度が834名、令和3年度が4,214名、令和4年度は8,725名と増加、今年度は10,000名を超える見込みとなっております。また、アウトドアサウナを提供する事業者数も5事業者から始まりましたが、市のアウトドア・サウナ施設等整備事業補助金を活用し、新たに始める事業者も複数あり、着実に成果が出ています。今後もこのアウトドア・サウナを観光資源として活用し、地域と連携して自然と共生した持続可能な豊後大野市づくりに取り組んでまいります。</p>
16	自然豊かな魅力ある地域を市内外へ発信したい	<p>(三重町駅周辺の整備、充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重駅に『ななつ星』が何分か停車しており、その時間『ななつ星』に乗車している家族連れの親子が写真撮影していました。せっかく全国から『ななつ星』を乗りこに九州に来ているのに三重駅の良さをPRすることが出来ればいいなと感じました。九州または全国から三重駅を訪れる人がいるので三重町の駅をシンボルとして何か派生していけばいいなと思いました。 ・観光に来てでも三重駅周辺、時間を潰せる場所が少ないと思います。 ・三重駅商店街付近の人通りが少なく、夜間歩き回るのが怖い。 	<p>JR三重町駅周辺整備につきましては、平成30年から令和5年度までを1期として道路、駅前広場、駐車場等の整備を行っております。駅西側にはイベントの開催可能な芝生広場も整備しており、駅東側にはバス、タクシーが乗入れ可能な交通結節点を整備することで駅利用者の利便性の向上と周辺地域の活性化を目指しております。また、駅舎の改修により観光情報の発信施設や利用者の交流を目的としたオープンスペースを整備し、既存のトイレを建て替え、バリアフリー化し、利用者の滞在快適性の向上を目指します。</p>

番号	テーマ	ご意見・ご質問	回答・説明
17	自然豊かな地域を市内外へ発信したい	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信が十分ではないと思います。 ・市報だけでなく、SNS、テレビ、新聞広告及び地元情報誌などを使用した宣伝を活用したらより効果的と感じます。 ・豊後大野市には素晴らしい自然、観光資源がありますので、PRを強化し、認知度を高めていって欲しいと思います。 	<p>市では県内ラジオ局、民放2社と年間を通じて契約をしており、随時観光情報などの情報発信を行っております。また、地元情報誌にも年数回広告を出しております。今後とも継続した情報発信を行うことにより、本市の素晴らしい自然、観光資源などのPRを行ってまいります。</p>
18	自然豊かな地域を市内外へ発信したい	<p>(スポーツツーリズム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングイベントを企画し、豊後大野市のツーリズムやサウナ、食等を市外、県外へPR。 ・スポーツツーリズムについて、モータースポーツも推進してはと思います。三國峠を利用したラリーや、国内外の自動車ディーラーと共に新車を使い市内を走行する試乗会など。(提供する食事は市内産のジビエや野菜を使用したもの) ・自転車による競技の実施も面白いと思います。 	<p>豊富なスポーツ資源や観光資源を活かし、地域の魅力向上や交流人口拡大、地域活性化を図るため、プロサイクルチーム「スパークルおおいた」と本年8月1日に連携協定を締結しました。</p> <p>今後はサイクルツーリズムの一環として、世界を目指す中高生ロードレーサーを対象とした「ユースキャンプ」の誘致や、スパークルおおいたの情報発信力を活かして、豊後大野市の食や自然・文化等を対外的にPRする等、自転車を活かしたまちづくりを推進していくこととしています。</p>
19	自然豊かな地域を市内外へ発信したい	<p>スポーツ関連施設の整備は進んでいるが、宿泊施設の数が少ないのではないのでしょうか。</p>	<p>ホテルなどの宿泊施設の充実には民間事業者の進出が必要となります。市(商工観光課)では指定管理施設のうち3施設をログハウスなどの宿泊施設として運営しておりますので、スポーツや観光の各種事業による誘客促進を行うことにより、民間の宿泊事業者の進出に繋げてまいります。</p>
20	全体を通して	<p>第2期総合戦略策定に際してコロナ禍をどのように考慮に入れたか、ポストコロナで目標値や達成率の変更があるのか、見直しをしない場合はその理由などを確認したい。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、テレワークの普及や地方移住への関心の高まりなど、社会情勢が大きく変化していく中で、テレワーク等ができる環境を整備し、都市住民の受入や県外企業を受け入れるための施策などが総合戦略に盛り込まれました。</p> <p>また、ポストコロナ時代における総合戦略の目標値や達成率について、現在のところ変更は考えていません。その理由としては、引き続き現在の総合戦略の各施策を推し進めていくことが重要であり、大幅な変更について必要はないと考えるからです。また、コロナ感染症が5類へ移行した今年度をどのように評価するかが重要であるとも考えており、引き続き市民の声や社会情勢の変化を反映し、総合戦略の見直しを検討していきたいと考えています。</p>

番号	テーマ	ご意見・ご質問	回答・説明
21	全体を通して	<p>基本目標①「豊かなくらしとしごとを創る」の数値目標「新卒者の就職者数」について</p> <p>2025年度の目標値30人（2022年度の実績値から4人増）となっているが、具体的な取組等はあるのかご教示願います。</p>	<p>「新卒者の就職者数」につきましては、豊後大野公共職業安定所等と共同で実施しております三重総合高校における「地場企業合同説明会」で地元の高校生の地場企業への関心を高め、就職につながる取組をしております。また、市内立地企業の情報誌を大分市以南の高校に配布し、誘致した企業等の人材確保に努めています。</p>
22	全体を通して	<p>・安全安心農業推進事業について</p> <p>GAP認証取得には認証機関に費用を払う必要があるようですが、補助や助成の制度はありますか。</p>	<p>農産物の生産体制の改善を図ることにより、価格決定力を確保し、持続可能な農業経営を推進するため、GAP認証の取得に取り組む農業者等に対し、GAP認証取得支援事業補助金を交付しています。令和5年度においては、団体認証により6名がJGAPの取得を行い、本事業を活用しました。引き続き事業推進を図ってまいります。</p>
23	全体を通して	<p>・園芸産地整備事業について</p> <p>事業実施品目に葉タバコがふくまれています。全国たばこ耕作組合中央会が公表している資料によれば、葉タバコの販売実績は年々減少しています。従って、実施品目から外してはどうでしょうか。</p>	<p>葉たばこをとりまく情勢は、平成23年と令和3年にJTによる廃作奨励が行われたことで、耕作者及び耕作面積が大きく減少しました。令和5年度では、9戸の葉たばこ生産者が約23.5haの栽培を行っており、本市の農業生産額の向上に寄与していただいています。ご指摘の事業につきましては、県補助事業となっており、事業要件を満たせば事業活用できますので、引き続き生産者の要望に応じて適宜対応してまいりたいと考えます。</p>
24	全体を通して	<p>・ブランド認証特産品PR事業について</p> <p>ふるさと納税返礼品に、積極的に活用してはどうでしょうか。</p>	<p>ブランド認証された商品については、既にふるさと納税返礼品として登録しております。</p>

番号	テーマ	ご意見・ご質問	回答・説明
25	全体を通して	<p>・流通販売戦略推進事業について</p> <p>東京で飲食業を営んでいる地元選出の参議院議員白坂亜紀氏に、地元食材のPRやセールスに一役かってもらおうと良いと思います。</p>	<p>農業振興における販路拡大の取組については、福岡市中央卸売市場でのトップセールスやJA各部会における市場での販売促進活動を行っております。また、豊後地区フライト集出荷促進協議会において、豊後大野、竹田両市の農産物を県央空港からフライト便で東京へ年2回空輸し、県のアンテナショップである坐来おおいたでコース料理の食材として提供されています。今後は、大分県東京事務所や本市商工観光課等と連携し、豊後大野産野菜の更なるPR手法について、協議検討してまいります。</p>
26	全体を通して	<p>・小規模事業者経営改善資金利子補給補助事業と中小企業振興資金融資関連事業について</p> <p>人口減少に伴う縮小社会においては供給の過多解消や生産性の向上といった観点から、体力の無い事業体は淘汰されるべきで、いわゆるゾンビ企業を生み出さない為にも、そのふたつの事業は廃止したほうが良いと思います。</p>	<p>本市の中小企業・小規模企業は、本市の雇用と経済を支えるなど、重要な役割を果たすとともに、地域経済の発展と市民生活の向上に貢献しています。このため、豊後大野市中小企業振興条例並びに豊後大野市中小企業・小規模企業活性化基本条例に基づいて、市・商工会・金融機関等が一体となって中小企業等の経営の改善及び経営基盤の強化の促進を図るための各種事業を行っています。市民生活に必要な市内企業が、資材やエネルギーの高騰といった経営課題を乗り越えられるよう、必要な支援は継続してまいりたいと考えております。</p>
27	全体を通して	<p>・婚活支援事業について</p> <p>事業の結果、結婚へと至ったケースはあるのか、無いのであれば抜本的見直しが必要、或いは廃止でもいいのではないかと思います。その結果浮いたお金は子育て支援に振り向けたほうが効果的だと思います。</p>	<p>婚活事業では、結婚相談業務や婚活イベントの他、気運醸成のための交流会や勉強会の開催等、幅広く活動を展開しています。婚活イベント後に婚姻に至ったケースを現段階では確認できていませんが、地域全体の婚姻に対する気運を高めるとともに、結婚したくてもできずにいる人の後押しができる取り組みをしていきたいと考えています。</p>
28	全体を通して	<p>・子育てや教育関連の全事業については、どれも重要であり拡充の方向で進めてほしいです。</p>	<p>これまで、国や県の補助事業はもとより、「ブックスタート支援事業」や未就学児の保護者向け「子育て支援金事業」、「子ども医療費助成事業」における県補助対象外分についての助成など、市独自事業にも取り組んできたところです。加えて、令和5年度からは妊娠出産時の「子育て応援ギフト」、運営費の一部を助成する「認定こども園等入所予約児童対策事業」を創設。さらに令和6年度からは、子ども医療費助成事業の対象者を高校生等までに拡充する方針としています。</p> <p>教育委員会においても「郷土を愛し、つどい、つながり、ふれあい、学び合い、次世代へ未来を拓く、豊後大野の人づくり」の基本理念の下、人々が郷土を愛し、集い繋がり学び合える教育環境の充実に努めています。今後もキャリア教育や郷土学習の取り組みを始め、地域と連携して、課題やニーズを掴みながら、必要な事業を精査し、各事業の取組を進めていきます。</p>

番号	テーマ	ご意見・ご質問	回答・説明
29	全体を通して	<p>・緊急通報装置設置事業について</p> <p>特殊詐欺防止のために、迷惑電話機能付き電話機の導入支援やナンバーディスプレイ付き電話機導入支援も行なったほうが良いと思います。</p>	<p>本市では、総務課防災危機管理室を窓口として、満65歳以上の方又は満65歳以上の方と同一世帯である方を対象に特殊詐欺等の被害防止機能付き電話等の購入費用を補助しています。補助金額は購入及び設置費用の3分の2で上限10,000円です。購入前に申請が必要です。</p>
30	全体を通して	<p>・生涯現役世代育成支援交付金事業について</p> <p>対象年齢を考えると、総合的に考えて厳しいのではないかと思います。廃止の方向で検討を。</p>	<p>生涯現役世代育成支援交付金につきましては、国・県の制度の対象とならない56歳以上65歳以下の退職世代を対象に、農業の担い手確保を図る目的で実施しています。本年度は60代2名の方へ交付を行いました。いずれも大分県立農業高等学校の長期野菜コースで研修を受けた後、地域で新たに農業を開始し、認定農業者を目指しています。農業の担い手確保は、多様な人材確保が必要であり、農業高等学校の研修生からも相談が続いていますので、引き続き支援をしてみたいと考えます。</p>